

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 佐々木 久美子

論 文 題 目

周術期患者における回復の質と看護に対する認識との関連

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	藤本 悦子
	名古屋大学教授	浅野 みどり
	名古屋大学教授	池松 裕子

論文審査の結果の要旨

従来の術後患者の回復に対する評価は、主に合併症の発症率、検査データ、入院期間等に基づいて行われてきた。しかし、近年、術後回復においても、心理面や社会面を含むより多面的な評価が求められるようになり、術後患者の回復の質（Quality of Recovery）を測る尺度が開発されてきている。看護サービスの術後回復の質への影響に関する研究は、患者インタビューに基づく質的研究が主であり、看護サービスと患者の回復の質を定量化した研究はみられない。そこで、本研究では消化器がんの患者に、サービス理論に基づいて開発された看護サービスの質を測定する NURSERV-J（下位尺度：有形性、信頼性、反応性、確実性、共感性）と術後回復の質を測定する QoR-40J の二つの自記式質問紙の回答を依頼し、患者が感じている術後回復の質と看護の質との関連について検討した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。




消化器がんと診断され全身麻酔で手術を受けた成人患者 80 名を研究対象とした。

1. 看護サービスの質が高いと認識している患者は術後回復の質も高かった。
 - ・術後 3 日目及び退院日の NURSERV-J 合計得点と同日の QoR-40J 合計得点は有意な正の関連を認めた。
 - ・術後 3 日目及び退院日の NURSERV-J 合計得点を三分位にし、年齢、性別、手術方法、手術時間で調整し、同日の QoR-40J 得点を比較した結果、有意な差が認められ、NURSERV-J 合計得点が高いほど QoR-40J 得点が高かった。
2. 術後 3 日目では特に【有形性】、【信頼性】、【反応性】と術後回復の質との関連が強かった。
 - ・NURSERV-J 下位尺度得点を満点群（当該サービスの全てに満足している群）と非満点群（当該サービスの全てに満足しているわけではない群）の二群に分け、QoR-40J 得点を比較すると下位尺度の【有形性】、【信頼性】、【反応性】において満点群が非満点群より QoR-40J 得点が有意に高かった。
3. 退院日では【有形性】、【信頼性】、【反応性】に加えて【確実性】、【共感性】と術後回復の質との関連も強くなった。
 - ・NURSERV-J 下位尺度得点を満点群と非満点群の二群に分け、QoR-40J 得点を比較すると【確実性】【共感性】においても満点群が非満点群より QoR-40J 得点が有意に高かった。

本研究は、量的研究方法によって、看護サービスの質が高いと術後患者の主観的な回復の質が高いことを明らかにした。本研究結果は周術期看護に有意義な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	佐々木 久美子
試験担当者	主査 名古屋大学教授 藤本 悦子	名古屋大学教授 	名古屋大学教授 浅野 みどり	名古屋大学教授  池松 裕子 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病態・ASA-PS・薬剤等が術後回復の質に与える影響について。 2. 測定時期における回答者数の不揃いについて。 3. NURSERV-Jが規定する時間単位と今回の使用方法の妥当性について。 4. NURSERV-Jのデータを3分位あるいは2分位にした根拠について。 5. 本研究の今後の発展の方向性について。 <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				